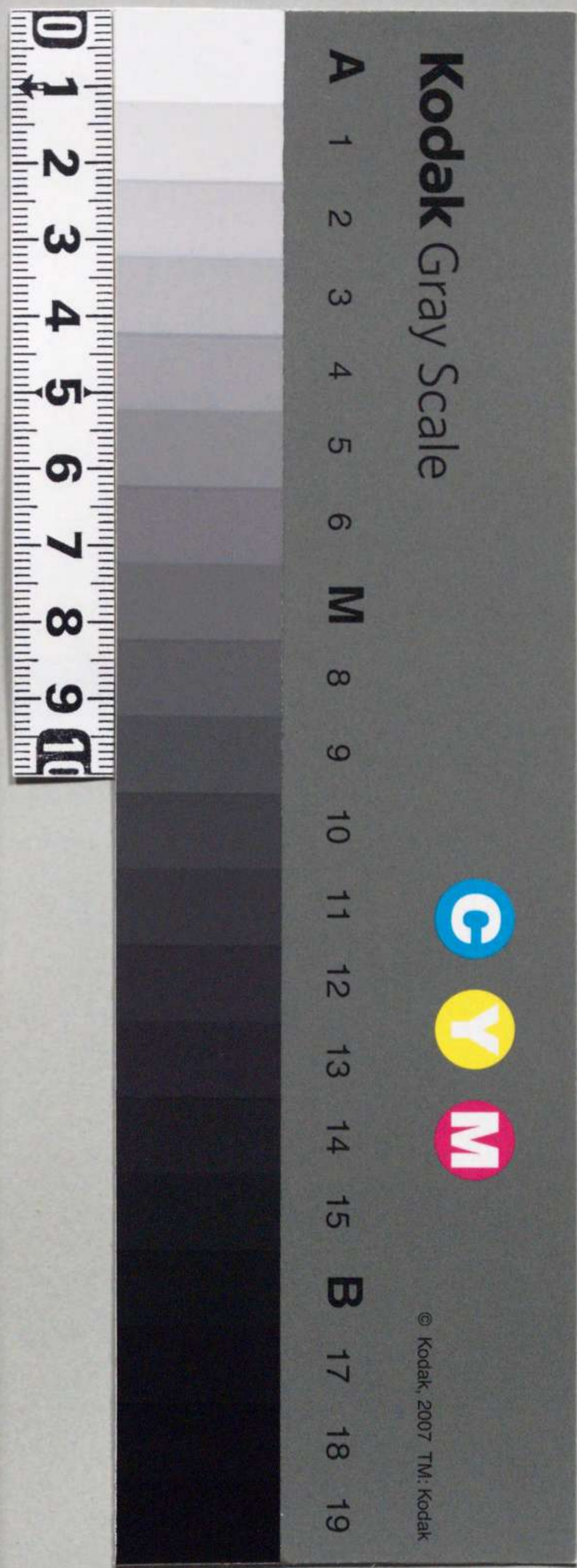


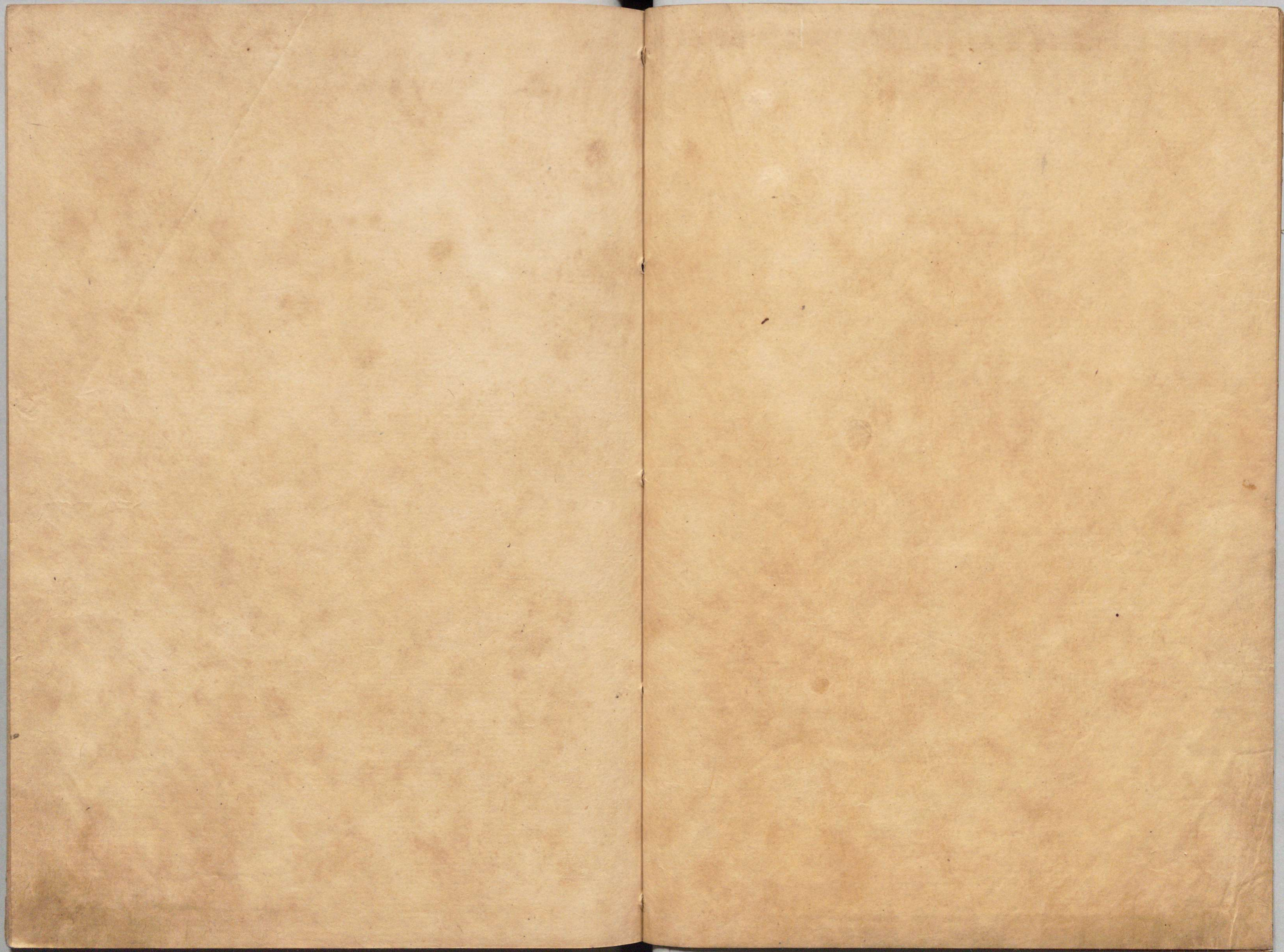
36

寛永諸家譜

清和源氏己三冊之内
頼季流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186	(36)	
函號	特	76	1





赤井
須田

寛永諸家系圖傳

清和源氏

頼季流

赤井

別一 草田中号寸

● 頼信

河内守

浅草文库

賴義らうぎ

伊豫守いよのしゅ

賴清らうせい

肥後守ひごのしゅ

仲家なつか

筑前守ちくまんのしゅ

光清みつせい

盛國もりくに

村と判官代むらとはんぐわんだい

賴季らうき

掃部助さうぶのすけ

海實うみざね

井と次郎いのじろう

判友代はんぐわんだい

在光ざいこう

判友代はんぐわんだい

大掾の祖おほのすけのそ

丹波ふさぐさたんばふさぐさ

新重 しんじゅう

大槻右衛門 おおいつきゑもん

新重 しんじゅう

押領使 おしりょうし

重光 しげみつ

實重 じつじゅう

源大吏 げんたい

源海 げんかい

大炊助 判友代 おほいのみけ はんともしろ

韋田社 わいどのら

丹波下流 たんばしも

道家 どうか

大吏 たいし 丹波才國 たんばさいくに 押領使 おしりょうし 道康 どうかん

丹波才國 たんばさいくに 押領使 おしりょうし

家業 いんごう

三郎

忠家 ただ

葦田判友代 あしだ

同押領使 おしりょうし

家範 けいはん

同八郎

政家 せいけ

同太長清尉 たいちやうせい 同押領使

家高 けいこう

新長清尉 しんちやうせい 同押領使

政業 せいごう

三河河内系 さんかのわちやま

兼久合戦 かねひさのくわせん 命 いのち

松次 まつじ

國家 こくご

右衛門尉 みぎもんじゆう
長清太郎

家廣 いちはら

右衛門尉 同押領使

家元 いへもと

末代丸 すえだいまる

家輔 いへすけ

次郎 右衛門尉 同押領使

基家 いへもと

右衛門尉 同押領使

胡家 こけ

同八郎 兼久子没収 あきひさこ

孝貞 たか

孫二郎

秀家 ひで

持家 もち

又郎

又五郎

久多栞 くらすの

の範 のり

小治部 こぢぶ 部長 ぶちやう の公 のこう

氏家 うぢや

馬廻八郎 うまわい

西方面 さいかた 所 ところ

為家 ため

赤井九郎 あかゐ

法名弘願 ほふな

父の家丹波守 ちちのいえ 丹波守 たんぱしゅ 玉 たま と と 為家 ため に に 譲 ゆづ り

しる しる の の け け づ づ り り 仕 し れ れ あり

家茂 しげ

太郎

法名真殿 ほふな

基家 もとけ

又次郎

法名妙歌 ほつな せうか

多良溪合戦の時、氏將軍に志こ
かひく軍功ありふより、二川ふたがわを
たまたげ給

清茂 きよしげ

九郎

法名樹歌 ほつな じゆか

清氏 きよぢ

文内右衛門尉 ぶんない うえもんゑい

家連 けいれん

又次郎

家直 けいぢく

兵衛助 べゑのすけ

法名善周 ほつな ぜんしゆ

正家 ただよ

二郎にじろう

法名ほつな善賢ぜんけん

助家 すけ

左京亮 さきやうりやう

家賢 けけん

左京亮

法名ほつな善桓ぜんげん

俊家 とよ

次郎じじろう左衛門尉

正家

左京亮

貞家 さだ

勝次郎 かつじじろう

何なに處ところに小幡こはたて了しやうかたき

正見 ただみ

討死 うちし

盛家

十郎右衛門尉
討死

播州牧野まきのにたかて

家望

筑後守

信家

源次郎
中ちゆうられらたたふふおおわわくく討死

某

孫七郎

祐家

筑前守

孝玉

播州牧野まきのにたかて討死

某

源次郎
天田郡古師あまのにおわく討死

家継たけ

新名清尉しんなみよ

家清たけよ

五郎ごらう

弓氏より旗をたまたふゆみうぢよりひらたてをたまたふ

季家あきけ

六郎むらじろ

基清もとよ

又三郎またさんらう

家國たけくに

家宗たけむね

河内郎かわのちうら

貞家まことけ

三郎又郎さんらうまたらう

右衛門尉みぎもんゑ

法名水觀ほんなみづくわん

國家くにけ

式部しきぶ

法名道幸ほんなみちゆき

時家 ときや

十郎左衛門尉

久家 ひさや

五郎左衛門尉

法名 永通 えいとお

家長 ちやうぢや

民部 たみぶ

清家 きよや

國家 くにや

孫六 まご

孝前守 たかみねのり

宗家 むねや

小二郎

圓家 まろや

治部左衛門尉 ちぶ

家藏 いへぞう

五郎次郎

法名 自如 しじゆ

光家 みつ

右衛門督 えもんのかみ

家季 いえ

五郎次郎

忠家 ただ

左衛門督

法名妙善美教 ほつな めうぜん びく

氏家 うぢ

又次郎

法名字苑 ほつな なづ ゑん

重家 しげ

右衛門督 えもんのかみ

某 たがひ

又次郎

隆家 たか

五郎

久家 ひさけ

河内守 かわちのり

安家 やすけ

左衛門 さゑもん

基家 もとけ

八郎 法名良家 はつらふ ぶつなよしか

家房 いけぼう

与右衛門

秀家 ひで

某 なにか

賢忠 けんちゆう

与右衛門

源八 げんぱち

二位 に

泮池寺 はんちじ

仁王堂坊 にまうだうぼう

長圓 ちやうえん

宰相 さいしやう

安樂寺中坊 あんらくじちゆうぼう

親家 おんけ

左衛門尉 さゑもんゑい

法名良悟 ぶつなよしか

惠家 きよ

右衛門尉

法名喜芳 きよし

吉家 よし

右衛門尉

法名静実 しずみ

宗俊 むねとん

安永寺通照坊 やすえのうらみ

時家 とき

某 なにか

妙玉 めうぎよ

孫又郎 まごまたろう

孫又郎

水井 みづい

某 なにか

又郎 またろう

忠家 ただと

右衛門尉

法名良直 らみち

運家

源七郎

光家

源七郎

氏家

又右馬の尉

某

某

源七郎

某

源七郎

与九郎

時家

越前守

内右氏に... 丹波國と播磨

二本にわらしくまほ兵をあらし丹波
國よりしり華田丸鳥憎子山陣を
しりて内友赤の國敵とすつまほ華
田丸若赤内友よりしりし時敵赤
神尾村よりたか時敵力致して
みつゝ敵れ首とぬらこのゆ
内友敗北す二つ内友若をりし
ておたか若も時敵敵度勝負
と決してはか内友法書とすら

て丹波を領す
天正九年五月八日八十歳に死
法名妙休

長家

治部大輔

長正

本店左京亮
天田新波法書にてかく討死

君家

久左衛門尉

源家

源太右衛門

某

源三

久下瀧村と号す

源清

源清太夫

某年の時より志ざりて戦功あり

弘治元年源清三平一乘に討つる事

同日と足利持太右衛門と戦つたこと

五十年の長次郎かくる良村に陣を

しつた時源清太右衛門は二三百人

敵ありて葦田足利と討つる事

赤をかくりて小腹を切らるる事

て痛むはかりし事あるに弘治

三年二月廿日、辛三未にして死
法名洋芳

重正

重正徳川尉

萬年の時外舅萩聖氏何家重正兄
家清よりたり謀叛とくしたるに
重正萩聖よりけしよりして重正尉
と号す
高村合戦のやと重正十二ヶ所の戦

かう少家

天正六年二月九日、壬午未にして死
法名常休

幸家

新八郎

あぶら少備

生國丹波

長十一年四月八日、辰見よて病死
法名釣月

章長

友右衛門

生國同好

を列演松えいしゅうくくたわく

東照大指現とうしょうとありとあり

約念えんに

ふわ海井うみい右衛門尉忠次たつたけくく属次ぞくじ

之この後小笠原こがさわ右衛門佐さけ之属ぞくくく

信列しんりゅうと田のにあきくあきく討死うちし時とき二十にじゅう

八歳

貴成

石川いしかわ孫右衛門

系けい別べつくくしあり

善業

七郎しちらう善清

生國きこくと聖せい

寛永くわんえい七年

右徳院殿

右軍みぎぐん家いへとありとあり

時勝

在甲卯 生國丹波

長十六年三月七日大和
病死 法名常圓

時政

生名兼光 生國丹波

寛永三年 將軍家へおこし

某

在卯三郎

素

継子代

時盛

弥平色法師 生國丹波

浪人おたつてを列溪松より
大指現をありしなりしれはわさき
大指現より下り家清書之通あり

これい

主帳

在境之文使者被_レ為_レ越_レ後
 祝_レ美以_レ拜_レ其_レ許_レ之_レ法_レ沖_レ以_レ被_レ道_レ子
 先_レ之_レ本_レ在_レ之_レ玉_レの_レ美_レを_レ去_レ之_レ也
 之_レ法_レ沖_レ以_レ被_レ道_レ子
 之_レ法_レ沖_レ以_レ被_レ道_レ子
 之_レ法_レ沖_レ以_レ被_レ道_レ子

十一月二日 家康

葛田平兵衛尉殿

就_レ主_レ國_レ之_レ振_レ子_レ使_レ者_レ被_レ招_レ越_レ人_レ美
 細_レ之_レ也_レ之_レ意_レ以_レ柳_レ今_レ度_レ以_レ先
 一_レ接_レ来_レ之_レ後_レ起_レ之_レ城_レ新_レ持_レ之_レ也
 以_レ新_レ御_レ孫_レ何_レ分_レ也_レお_レ之_レ地_レ也
 信_レ雄_レ也_レ之_レ方_レ一_レ夜_レ法_レ存_レ以_レ也_レ度
 可_レ之_レ抽_レ我_レ忠_レ以_レ道_レ又_レ之_レ表_レ接_レ接_レ也
 及_レ合_レ我_レ池_レ田_レ猪_レ入_レ父_レ子_レ之_レ人_レ也_レ始_レ森
 武_レ義_レ也_レ塔_レ久_レ在_レ良_レ長_レ台_レ川_レ友_レ也_レ即
 之_レ好_レ孫_レ也_レ之_レ外_レ大_レ也_レ也_レ也

十人余あまのいげ下の志ま一万餘まんよ討う討ち下りの羽
柴しば俣ま七しち通と詔し多た一いち人ひと也なり進しん籠ろう
至いた人ひと召ま不ふ移い時とき自より下くだ根ね切きり眼まなこあらく
糸いととと落お之の志ま福ふのの當あた使つか志ま多た多た漢かん
説とのの様さまし

卯月古 家康

道田平兵衛尉反

進しんとと結むす述しゆのの志ま自より前まへにに被あ相あ

把と下くだ領りやうにに俣ま志ま及およ沙さ法はふ新しん地ちに
事こと茲こゝにに自より掛かりり来きたりり相あ見み覚さ悟ごし
糸いととと落お之の志ま福ふのの當あた使つか志ま多た多た漢かん
史し志ま作つくららしし様さまし

五月十四日 家康

道田平兵衛尉反

右みぎのの清きよ書しよ同どう時ときにに本ほん多た平へい八はち忠ちゆう勝しやう副ふ
此こゝ一いち通とししあり

寛永十一年八月十日病死七十六歳
法名常安

時長

太郎左衛門尉 生國同前
右衛門殿より侍へりて 後河津城の
津青
寛永十三年八月朔日死年未
法名常真

時次

持左衛門 生國三列
右衛門殿より侍へり
元和九年病死

時喜

持左衛門 生國武列
寛永十一年
將軍家へ侍りて死

時重

永平三年 生國武列

祖父内直が養子やちん家

寛永十三年

將軍あともり ちり内直を法とけ

時香

五年次 生國同家

寛永七年六月書

將軍あともり ちり

忠家

五郎 生國丹波

永禄七年忠家十歳に丹波れ國

井崎にたかく内友備前と合戦の

ごき忠あがらと敵に村たき

白方れけしきいれあり

忠家より年々此時父より書きし以て伯父
直正より國の事とせらるるがごとく
忠家丹波の奥三郡と領し信長様
をたまはれ

丹波國奥三郡の領し當分りし
目常清より知し糸任より自れありし全
領知五郡よりお邊りし仕舞
永禄十三

三月日 信長様

葛田書

まは忠家より書きし合戦
とせらるる丹波と謝郎但馬郡本郡より
たゞくは丹波のうら三郡と波多
聖と総々これと領し波多聖の
男れ家たよりし一と赤井波多野
家合體しこれと波多智日向る光秀
織田七名藩尉信澄は長れ下知し
丹波よりせらるる此時赤井波多野

支那の兵隊は、こしとやがら、海を國と
まわつて、なほ光秀信隆二つび丹波を
乱らして、大に勝利をゆつらつたとき、
波多聖殿にす翌年、忠家は、丹波
をまわつて、を列し、おもひしき二侯を
居す

文禄元年、高麗陣の時、秀吉より、
出陣して、米地子石をたまふ
秀吉薨して、は伏見の白鴉を

大指現とむしなれ

文長五年、園原津陣の時

大指現とむしなれ、米地子

石加増をたまはせ

同十年、四月廿九日、伏見にて、病歿、五十七歳

法名宗圓

忠泰

一名尹勝、出陣、他をば、吉原

秀長乃ゆゑ忠泰十四歳少く相馬
信濃守の御伊豫守ゆゑらつてこそあり

大権現へ清目見し十七歳より

つひと

慶長七年知り子石平領す

同八年

大権現將軍宣下の時流石部下に叙し

忠泰はちり任す

忠家死すの復りれは流石の御子石

とたまはりて忠泰が御下れ子石を
身公雄下りせ給
大坂あなれ清陣
大権現の御下す

元和三年

右徳院殿天目守御再興れ時行相と
忠泰もふ善清守りしと 任付し
復清使番とあり給

云雄えんを

右馬侍

父忠家死去の故に母を以て臨二千石を免
尹勝より与れり其ら尹勝の御代子
石と

大権現の御命えんを云雄これを領す

十歳の時

大権現とありしより十四歳えんをの後府
におはめはくも

長十九年大坂陣の時おのころ侍ごころの侍ごころと

は

右馬院殿

將軍とありしより侍とあり

公久えんを

右馬侍

美を川勝大守右馬侍重氏の子なり其父云
雄子なり其父赤井氏とははぐ十五

歳の時

將軍家とありしとき

寛永十八年より御書院書とありし

忠秋

五郎仙

又恒宅とありし

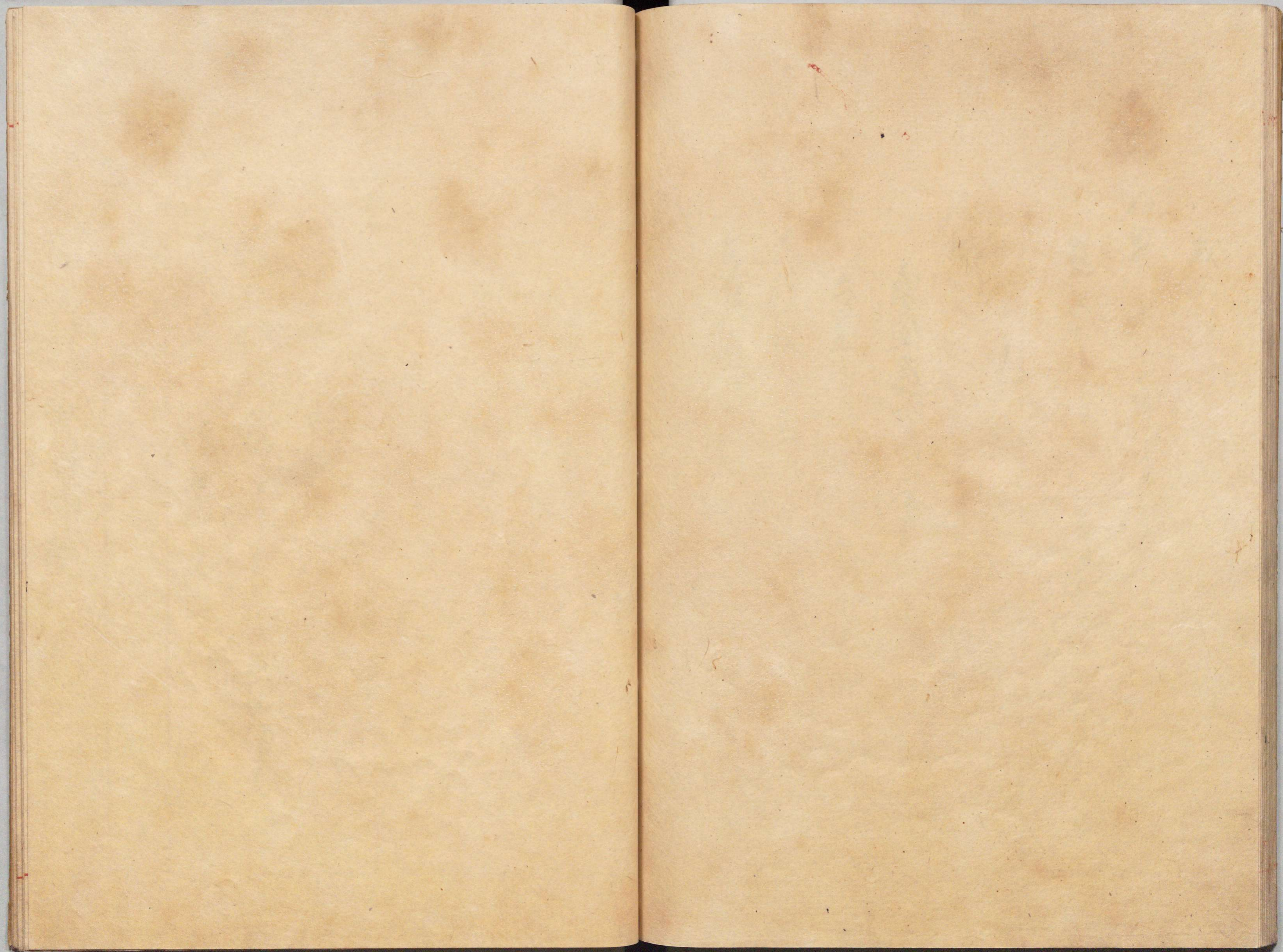
とありし後府にありし

大指現とありし其後深人なりし

台徳院殿にありし十九年より清書

とありし

家紋存金明住書



正克

あきすけ

大隅守

あきすけのり

生國信列

あきすけのり

信列次坂の城をとりて武田信虎

たけのこ

正克

正克

あきすけ

盛友

もりとも

肥前守

あきのり

生國同前

須田

すだ

信虎に侍る

盛義

名部 生國甲列
信玄より侍る

盛永

右近 生國同列
勝頼より侍る

天正十年

東照大権現とありたゞくまら

寛永元年九月廿四日死す時より八十
二奉

盛清

平左衛門 生國同列

天正十年甲列没落せり

大権現とありたゞくまら

同十八年小田原陣に侍す

安永五年岡原陣に侍す

台座院殿に侍す大御書に侍す

代官をうゝあたりに侍す

代官をうゝあたりに侍す

將軍殿に侍す

寛永十五年九月七日死す七十五歳

廣居

五

次郎太夫 生國同家

大掾現を有す

天正十八年小田原陣に侍す

文禄元年名護屋陣に侍す

安永九年岡原陣に侍す

同十九年元和元年大坂陣に侍す

侍陣に侍す

侍陣に侍す

台座院殿に侍す

正時

儀左衛門 生國武列

右衛門殿

將軍殿より行きたるまじり二千八歳

みく死

祇寛

以郎左衛門 生國城列

寛永十年四月十五日

將軍家とありてある

同十二年十二月廿八日父が政智と

つと大津毒とほしむ

廣義

儀左衛門 生國同列

美の本目拾十郎子あり

將軍家とありてある 養父正時

きり泣きたまはつ

本國が傳へりしごとく松平隼人正之別
加茂郡下屋敷の主大徳の末子なり
とて子持の妻の尉浪人といふなり伊豆に
しきと秀吉の條氏と退治し時持の
徳勢の妻内若かりたりて箱根を
こし中にしりし首級とぬり
り

大徳現るしりしとて松平とつた
本國と号する繁陣圓尔陣大坂

多陣つたしりしとて伊豆いずとて子持こもちなり

大徳現

台徳院殿よりつたなりしり大坂多陣

寛永六年三月死すなり

盛近

長三郎
文禄四年

台徳院殿とありとある

長十八年二月死二年二月

盛正

久吉集の 生國武列

元和四年

台徳院殿とありとある

同九年

右軍ありはくたきまらり大津妻を

はくたき

盛森

傳右集の 生國武列

元和四年

台徳院殿とありとある

右軍ありはくたきまらり

盛常

平右集の 生國武列

寛永十六年

將軍家と評ししもの

盛当

与左衛門 生國同家

右衛門殿

將軍家と評ししもの

家紋と評ししもの

